

街を行く

第92回 シカゴ (その1) Chicago

建造物のジュエリーボックス

この街を訪れたのは何と30数年ぶりです。思い起こすと小生が20代後半で、まだ物事を大して解らぬまま背伸びしていた頃です。

シカゴには歴史的価値の高い建造物が多く、そうした意味で米国一お洒落な街かもしれません。(鮮明ではありませんが)記憶に残っている建物も多く残っていました。

かつては穀物相場の中心で米国第2の都市として栄えていましたが、建国の地で教育の街でもあるボストンや、政治の都ワシントンDCと比べて弱くなったことは否めません。最近ではITの総本山であるシリコンバレーを擁するサンフランシスコが第二の都市に浮上しているというのも時の流れでしょう。

俗っぽい話題でいくと、禁酒法時代に暴れまわっていたアルカボネの根城としても有名ですね。今はダルビッシュの所属するシカゴ・カブスの拠点という方が馴染みがあります。

街の景観・観光としてはミシガン湖があり、風景がとても素晴らしい。見渡すとハワイ・ワイキキが思い浮かびます。ワイキキではビーチ沿いにホテルが連なっていますが、シカゴは湖岸沿いにオフィスビルが連なっています。シカゴの街ならではの個性的な景観です。ちなみにミシガン湖の対面はカナダですが、水平線の彼方で何も見えませんでした。

シカゴの湖を見てもビルをみても、アメリカ大陸のスケールの大きさには驚かされますが、街はスケールだけで勝負が決まるわけではありません。そのクオリティも重要です。



記念公園からミシガン湖を臨む。湖岸に立ち並ぶオフィスビル群はシカゴならではの

街中のドッグラン(犬を放し飼いにして走らせるのが認められている公園)で、イタリア系のご夫人に連れられた柴犬に出会いました。聞くと犬の名前は「モカ」。街中で見かけた数多い犬の中で飛びぬけて綺麗で可愛いのです。日本犬はクオリティ(?)が高いですね。最近では海外各国を訪れるたびに、日本人の勢いの弱さに愕然としますが、この子のお蔭で日本人の誇りを感じさせて貰いました。

街にこれといった日本食レストランは見当たりません。駐在する日本人の減少に伴ってかつてあった店の多くも閉店したようです。代わって(日本以外の)アジア系経営者の“なんちゃって”和食店が元気で、連日地元の人で大入り満員だそうです。実際に小生も訪ねると、これがなかなか美味しくていい

店でした。われわれ日本人は現地日本人マーケットを狙って出店を検討しがちですが、和食が日本の枠を超える文化になってきた今では、これを広める事業者にも日本も外人も関係なく“ダイナミックさ”が求められるのです。日本人は先人に見習い、もういちどチャレンジ精神を取り戻して貰いたいものです。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。